

市政ニュース

市営バス「イナカー」が運行開始

路線維持のための積極的な利用を

路線バスの一部休止申出に対応し、地域住民の生活に必要な旅客輸送サービスを確保するため、豊岡市が事業主体となり、一般旅客自動車運送事業者に運行を委託した市営バス「イナカー」が10月1日から実証運行を開始しました。

これに先立ち、9月29日、「イナカー」の出発式を市役所前駐車場で開催し、市関係者や運行事業者のほか、沿線児童を代表して竹野南小学校6年の岩崎善起さんと富森香帆さん、合橋小学校6年の久世剛史くんと中井文香さんが参加しました。

中貝市長は「市民の交通手段は守る、を基本とし、実情に応じたものとした。利用状況によっては廃止もありうる。背水の陣で臨み、維持できるように頑張りましょう」とあいさつし、通学でバスを利用する久世剛史くんが「児童の7割、冬には9割がバスで通学します。なくなると聞き不安でしたがバスが走ることに安心しました。毎日元気にあいきつするので、運転手さんよろしくお願いします」と歓迎の言葉を述べました。

新しいロゴの入った車両4台は、関係者らに見送られ、次々と出発しました。

実証運行後も路線を維持していくためには、市民の皆さんの理解と支援が不可欠です。積極的な利用をお願いします。



▲市役所前から次々と出発する市営バス「イナカー」

北但広域療育センター「風」がオープン 総合的な障害児(者)療育の拠点施設に期待

豊岡市と香美町、新温泉町が連携して整備を進めていた障害児(者)の地域療育拠点施設「北但広域療育センター『風』」が戸牧に完成し、10月1日にオープンしました。

同施設は、専門的人材により幼児期から一貫した療育指導や訓練を提供するとともに、保護者や家族への支援の充実、関係機関等との連携を図り、総合的な障害児(者)療育を推進するために整備しました。

完成式典では、登録保護者代表の野村靖子さんが「北但の地に念願の療育センターが

でき、尽力いただいた方々に感謝します。これから本当の療育の拠点となるよう育てていきたい」と感謝の言葉を述べました。



▲完成式典で、関係者によるテープカットと玉割り

市議会議員定数条例案を可決 議員定数を26人(4人減)に改正しました

9月市議会定例会最終日の9月29日に、議員発議により市議会議員定数条例案2件が提案されました。

1件は、会派「みらい」からの提案で、現在30人の議員定数を2人減らして28人へ、もう1件は、会派「六星会」と「公明党豊岡市議団」による共同提案で、議員定数を4

人減らして26人に改正しようとするものです。

討論では、現状の30人、28人、26人のそれぞれに対する意見が出され、採決の結果、賛成多数で議員定数を「26人」にすることに決定しました。なお、この定数は、来年10月に予定されている市議会議員選挙から適用されます。

〈主な市政の動き〉

【9月】

17日・慶應義塾大学大沼ゼミが環境経済戦略学習で来市(19日)

20日・全国中学新人競漕大会(21日)

23日・但馬国際運動会

24日・小学生サッカー教室

27日・北但広域療育センター「風」竣工式

28日・いちどきん祭

災害看護フォーラム in 豊岡

出石消防団消防操法大会

会

29日・市営バス「イナカー」出発式

【10月】

2日・近畿地方道路整備促進総決起大会(東京都)

4日・子育てフォーラム「運動遊びで脳力パワーアップ」

10日・戦没者追悼式

11日・目の愛護デーイベント「守ろう180000のひとみ」

12日・出石だんじり祭り

13日・とよおかスポーツフェスティバル2008

14日・城崎秋まつり(15日)

慶應義塾大学の学生が豊岡で環境経済の取組みを学習

9月17日から18日までの2日間、慶應義塾大学経済学部大沼あゆみ教授とゼミの学生19人が豊岡市環境経済戦略の取組みを学ぶために豊岡を訪れました。

大沼ゼミの研究テーマは環境経済学で、今回の訪問は、戦略を策定して環境経済に取り組む豊岡でどのような活動が行われているかを学ぶためのものでした。

学生たちは「コウノトリ育む農法による米づくり」や「城崎温泉のまちづくりと宿づくり」などいくつかのテーマについて、取組みを進めている事業者から説明を受け、活発に質疑を行いました。

最後に行われた意見交換会では、学生たちから「関東では、豊岡・コウノトリ・城崎温泉・出石のいずれも認知度が低い。豊岡はとても素晴らしい所なので、もっとPRを、」

「豊岡の中でコウノトリや環境について温度差が感じられた。この素晴らしい取組みの認識をまず市内に広げてください」などの意見が出ていました。

9月13日から15日までの3日間、第54回全日本総合男子ソフトボール選手権大会が県立但馬ドームをメイン会場とする市内5会場で開催され、多くの観客でにぎわいました。

前年度準優勝の株式会社デンソー(愛知県)をはじめ、日本リーグ推薦6チーム、各ブロック予選を勝ち抜いた25チームの総勢32チームが、日本一をかけた、熱戦を繰り広げました。

開催地である日高地域の方々は、歓迎の手づくり看板を掲げ、大会を支援し、観客は日本トップレベルの選手が繰り広げるプレーの迫力、スピード、技の連続にすっかり魅了されていました。

結果は、高崎市役所(群馬県)が初優勝で、ホンダエンジン(栃木県)が準優勝でした。

開催地である日高地域の方々は、歓迎の手づくり看板を掲げ、大会を支援し、観客は日本トップレベルの選手が繰り広げるプレーの迫力、スピード、技の連続にすっかり魅了されていました。

第54回全日本総合男子ソフトボール選手権大会を開催 トップレベルの技、スピードに観客は釘付け!!

9月13日から15日までの3日間、第54回全日本総合男子ソフトボール選手権大会が県立但馬ドームをメイン会場とする市内5会場で開催され、多くの観客でにぎわいました。

前年度準優勝の株式会社デンソー(愛知県)をはじめ、日本リーグ推薦6チーム、各ブロック予選を勝ち抜いた25チームの総勢32チームが、日本一をかけた、熱戦を繰り広げました。

開催地である日高地域の方々は、歓迎の手づくり看板を掲げ、大会を支援し、観客は日本トップレベルの選手が繰り広げるプレーの迫力、スピード、技の連続にすっかり魅了されていました。

結果は、高崎市役所(群馬県)が初優勝で、ホンダエンジン(栃木県)が準優勝でした。

開催地である日高地域の方々は、歓迎の手づくり看板を掲げ、大会を支援し、観客は日本トップレベルの選手が繰り広げるプレーの迫力、スピード、技の連続にすっかり魅了されていました。



▲中貝市長の説明を聞く慶應義塾大学の学生たち



▲入場行進をする各チーム

中貝市長の徒然日記 ⑭

風

が悪くなり、着いたら訓練どころでなくなっていて、むなしく帰ることもしばしば。

自分の能力を深く深く理解し、筆を執ることを極力避けていた私が、字を書いてしまいました。北但広域療育センターの名称「風」です。「市長、思い入れのある施設でしよう?」という職員の殺し文句に負けました。

「風」は、豊岡病院の隣に10月から開設された、障害児者のための療育施設です。北但1市2町が共同で設置し、神戸聖隷福祉事業団に運営をお願いしました。

「結婚式や葬式にも行けない。但馬にはショートステイの仕組みもない」という保護者の悲痛な声を聞いたのが、10年以上も前のこと。関係者の努力によっていったん豊岡病院で始まったものの、その後病院の体制が整わないとして残念ながら止まったままです。

姫路に「ルネス花北」という療育施設があります。豊岡の子どもたちもお世話になっていますが、2時間もかけて行くと、子どもの機嫌や体調

がうまくいかなかったり、着いたら訓練どころでなくなっていて、むなしく帰ることもしばしば。せめて重症心身障害児・者通園事業を、ということですが、元モデルハウスの施設では、お風呂は無理でした。でも、一歩ずつ、一歩ずつ。職員が保護者や現場の方々の意見交換を重ねながら準備を進め、「風」が完成しました。理学療法士、言語聴覚士等の専門職が療育に当たり、精神科医の大森和広先生のご尽力もあって、来年4月には、施設内の診療所に障害児専門の小児科医もやって来ます。完成式典での保護者代表の方の言葉です。

「哀しくも利用できずに天国に召された多くの子どもたちがいます。さつと丘の上に吹く風となつて私たちを見守り、たまにのぞきに来てくれるのではないかなと思っています」涙が出ました。

